

しんめいばら

回 覧

第 160 号
2018.8.20

定期整備!

八月十二日(日)盆休みの最中でしたが子供会、会員合わせて十六名の参加により整備を行いました。連日異常な高温が続いたためか、この季節には見られなかった落ち葉が大量に落ち、子供達や親御さんが大汗をかきながら清掃作業を続けました。会員はサルビアやニチニチソウなどの植栽作業や、施肥、除草作業などを行い、灌水作業は、このところ連日行っていたが不十分であったことが判明し時間を掛けて行いました。十一時頃には落雷の音が聞こえ始めましたので、本日の作業を終了としました。



たくさん集まったね!

夏祭り!



華やかな店の準備ができました!

八月四日(土)学区夏祭りの会場にて会員有志により花苗の販売を行いました。夜店で売るためには少しでも華やかな花苗が必要となり、花屋さんからケイトウ、ペンタス、オリエンタルリリーなどを借用し、写真や価格表なども事前に準備しました。日が沈むころからは日頃経験のない客引きをして販売に挑戦しましたが、公園愛護会も学区の皆様にも少しづつ認知され、多くの方に購入を協力していただくことができ、今年もまた楽しい行事を体験することができました。

豆知識!

『花の不思議』

花は、植物自身のために咲く。

人が見るために咲くのではないと今さら言うのは読者の皆さんに失礼というものでしょう。花は花粉を運ぶ虫を惹きつけるためにさまざま工夫をしています。花粉を運ぶ虫が好む色、形。ある種の虫が現れる季節に合わせて花を咲かせる。虫は、自分では、それと気がつかずに体につけた花粉を運ばれます。ある植物を好む虫が現れる時期をどうして知るのでしょう。意思を持たない植物の仕業(しわざ)とも思えません。花の色や形、虫の特徴によって植物と虫の組み合わせが決まります。サクラソウは、開発、園芸用の採取湿地の減少などで絶滅の危機にあります。どんなにたくさん花が咲いても花粉を運ぶ虫がいなければ実を結ぶことができません。



山野の湿地に自生する野花
菖蒲。湿地自体が減っている

(入笠山)

今日の公園!



元気にラジオ体操!



お知らせ!

- 九月の公園整備は二日(日)で、雑草取り、灌水、施肥などの作業を行います。
- 九月の回収、ピン・缶は二十五日(火)、古紙は二十三日(日)です。町内会の回収活動にご協力下さい。
- 高松神明原公園愛護会は現在二十五名の会員により公園の美化活動に取り組んでいます。町内会員に限らずどなたでも入会が出来ますので、ぜひご参加下さい。

連絡先・二三七五一八一 山本まで